

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
(1) 子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。 (2) 子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。 (3) 教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。 (4) 学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づかれた開かれた学校をつくります。

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
担当	児童支援部	子どもたちの主体的な活動を中心として自己有用感を高め、自分も相手も大切にすることを育てる取組みをさらに充実・発展させ、互いを尊重する子どもを育てます。	① 子どもたちの課題に即した道徳授業の創造に取り組む。 指針1 「道徳の時間」の充実
			② 「けが0プロジェクト」「なかよし活動」を核とした委員会活動・異学年交流等、子ども主体の生活づくりを進める。 指針2 体験学習の充実
			③ 地域や社会と関わる機会を増やし体験を通して多様な人々への共感を育む。 指針3 確かな人権感覚・意識の育成
			④ 「緑園音楽祭」「全校音楽朝会」を核とした音楽活動や「学校図書館活用」による読書活動を進め豊かな情操を育む。 指針4 豊かな感性や情操の育成

2 児童（生徒）の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

全体的に落ち着いて穏やかに生活している。また、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がみられる。地域からの協力もえられており、子どもたちも地域の行事には積極的である。しかし、次の点が課題として挙げられる。

- ・自分からすすんであいさつをすることが苦手である。 (コミュニケーション能力に関する課題)
- ・自尊感情がやや低く、自分に自信がなく自分の考えを積極的に話すことが苦手な傾向がある。 (自己に関する課題)
- ・人の話を進んで聞いたり、学校のきまりを守って生活することができなかつたりする傾向がある。 (他者に関する課題)

3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

指針1 「道徳の時間」の充実

- ・全学級の道徳授業公開を年1回以上実施する。
 - ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と各学級の道徳の時間との関連を図り、授業の創造に取り組む。
- 【視点1】

指針2 体験学習の充実

- ・「けが0プロジェクト」を核として委員会活動を活性化させ、委員会の提案より学校全体が取り組む。
 - ・「なかよし活動」や「クラブ活動」など異年齢集団活動をより自主的、意欲的に行うことができるようにする。
 - ・一人ひとりが見通しをもつことで安心して自分らしさを発揮し、自分をよりよく高めていく力を育むようにする。
 - ・子どもたちの興味・関心をもつものや必要感のあるものなど価値のある課題を設定し、PDCA サイクルで授業改善をはかる。
- 【視点3】
- 【視点4】

指針3 確かな人権感覚・意識の育成

- ・地域の行事等に子どもたちが参加できる等、子どもたちの自尊感情が育つようなかわりを推進してもらうとともに、学校の教育活動にも積極的に関わってもらうようにする。
 - ・Y-P アセスメントの支援検討会の実施により、学級の課題の改善や個人の課題の改善に向けて校内の指導体制を整え、教師が「だれもが安心して豊かに」過ごすことができる学級風土づくりへ向けた協働ができるようにする。
 - ・必要な子どもに対して個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する。
 - ・一般学級の子どもは、授業や学校行事等で個別支援級の児童と一緒に過ごすことを通して、学び合いながら相互理解を深める。
 - ・姉妹校（ムーニーポンズウエスト小学校やラドバーン小学校）と交流して、日本の伝統・文化を尊重するとともに、異文化への理解を深めるようにする。
- 【視点6】
- 【視点7】
- 【視点8】
- 【視点9】

指針4 豊かな感性や情操の育成

- ・「緑園音楽祭」や「全校音楽朝会」を実施し、安心して表現することのよさを実感し、互いのよさを認め合えるようにする。
 - ・図書委員会の児童や保護者ボランティアによる本の読み聞かせや、図書委員会の読書啓発等から進んで読書に親しみ、豊かな感性を育む。
- 【視点10】
- 【視点11】